



康平雜記
書

特別
イ4
696
94



二月

六政官

青屋七男也

一橋從二夜

御書

左政官

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

一橋

御書

御書

御書

三十一日

山口廣部

辨官の事

私に其素暇に於て之を以て其の事を知る者多し

朝延の事は其の代に於て其の事を知る者多し

朝延の事は其の代に於て其の事を知る者多し

朝延の事は其の代に於て其の事を知る者多し

朝延の事は其の代に於て其の事を知る者多し

二月十七日

辨官の事

國元と云ふは其の代に於て其の事を知る者多し

大坂の事

大坂の事は其の代に於て其の事を知る者多し

大坂の事は其の代に於て其の事を知る者多し

大坂の事は其の代に於て其の事を知る者多し

大坂の事は其の代に於て其の事を知る者多し

大坂の事は其の代に於て其の事を知る者多し

大坂の事は其の代に於て其の事を知る者多し

大坂の事は其の代に於て其の事を知る者多し

大坂の事は其の代に於て其の事を知る者多し

大坂の事は其の代に於て其の事を知る者多し

大坂の事は其の代に於て其の事を知る者多し

長洲戰爭圖

明治三年癸午二月二十三日
至賊兵敗走
巨魁佐木正一被捕



右ハ江戸本家分回幕政ニ其際毎白字師也信施
日古月此者力不義也
研師方也主也
言能清山也其而
研出牛也上言也
其言可也信也
信中二字有集元自身
中言唐書也
口言也言人巨為信也
多中言也言人巨為信也
一七二也也言人巨為信也
研師方也主也
言能清山也其而
研出牛也上言也
其言可也信也
信中二字有集元自身
中言唐書也
口言也言人巨為信也
多中言也言人巨為信也
一七二也也言人巨為信也

○此美也言其折者
皇國也言其折者
其言可也信也
信中二字有集元自身
中言唐書也
口言也言人巨為信也
多中言也言人巨為信也
一七二也也言人巨為信也

小郡才四路死八人傷廿一人
二月廿九日 劫掠 死八人 傷八人
三月十日 劫掠 死八人 傷八人
三月十一日 劫掠 死八人 傷八人
三月十二日 劫掠 死八人 傷八人

○三月十四日 夜中將以外神田劫掠 死八人 傷八人
三月十五日 劫掠 死八人 傷八人
三月十六日 劫掠 死八人 傷八人
三月十七日 劫掠 死八人 傷八人
三月十八日 劫掠 死八人 傷八人

三月十九日 劫掠 死八人 傷八人
三月二十日 劫掠 死八人 傷八人
三月二十一日 劫掠 死八人 傷八人
三月二十二日 劫掠 死八人 傷八人
三月二十三日 劫掠 死八人 傷八人

○三月二十四日 劫掠 死八人 傷八人
三月二十五日 劫掠 死八人 傷八人
三月二十六日 劫掠 死八人 傷八人
三月二十七日 劫掠 死八人 傷八人
三月二十八日 劫掠 死八人 傷八人
三月二十九日 劫掠 死八人 傷八人
三月三十日 劫掠 死八人 傷八人

○庚午三月廿四日 劫掠 死八人 傷八人

臣家達

初上... 天威... 公... 天賜... 孝... 山... 靜... 年三月

○歐美... 宗谷

宗谷

利虎

校章

加列

百...

新西...

十...

...

...

梅...

...

...

...

...

...

十...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

後志部

天志部

天志部

天志部

天志部

天志部

德川

德川

德川

德川

德川

天志部

天志部

天志部

天志部

天志部

天志部

天志部

天志部

天志部

天志部

德川

德川

七方子

如月

十部

〇

五方子

三万石

以五

以五

五方子

五方子

八方子

八方子

湯澤

湯澤

宗

柳

米

月

伊

井

林

柳

柳

七方子

五方子

三万石

徳川

三万石

二万石

一万石

一万石

一万石

一万石

一万石

一万石

三万石

五方子

徳川

徳川
柳
米
月
伊
井
林
柳
柳
宗

上院之...

上院之...

上院之...

上院之...

上院之...

上院之...

上院之... (Large calligraphic block)

上院之...

上院之...

上院之...

上院之...

上院之...

上院之... (Large calligraphic block)

奸惡之徒夫結天下之大事... 大前高義... 逆臣天下之奸賊... 臣等此內使... 御前堂不日御英... 御中者志者由... 哀此難願仕... 指揮天符... 御拔... 正月廿四日

第四大隊有志中

長州藩備隊上書之序

臣等頃首謹曰先敎兵士... 兼而臣等誠心... 差起... 此將也何共... 之大難... 山前... 至... 內御... 臣等... 天朝... 倉庫... 疑... 朝廷... 是... 又者...

明治三年春長州内乱之檄文

下ヲ以テ上ヲ和スハ
朝廷之憲力ヲ以テ理ヲ滅スルハ天地ノ皇衆此ノ者

得テテテ逆臣乱賊ヲ和ス逆臣乱賊ヲ天下ノ人ノ
去テ脱隊ノ離乱ヲ原スルニ兼テ

天朝ヨリ被
御出テ以テ國內之制度改革被

天朝ヲ輔翼被遊候

若上層大之御盛意ニ博リ兵隊一將脱走附和
密同千百群ヲ成ニ其一己ノ私欲ヨリ國家真
際ノ險擾ヲ引出シ山ノ兩道ノ関門ヲ奪ヒ數
千人砲臺ヲ築キ長竜ノ私財ヲ掠奪軍ヲ全殺
竊

朝廷官人皆慕才敏之無罪人兵士ヲ捕縛シ愚民ヲ
朝廷ノ刑罰ヲ裁シ御國是ヲ誦誘シテ官負黜陟ヲ
論ス蓋其將公行兵力ニテ以テ

若上政府無
君威ヲ破壞シ政治ヲ擾亂シ賞罰ヲ盜ニ大權ヲ
弄ス其罪惡深重東海ノ水ヲ以テ之ヲ洗フモ

若上知天ノ廣大之仁ヲ以テ其無智ヲ悞シ親ヲ
銃炮紛錯ノ間ニ立ラ百方設詭計シテ前罪ノ名

御出御藩若公ニ於テ往來奔奔鎮撫ノ力ヲ被蒙
畫候得共巨款大擄其間ニ出御シテ兵士ヲ稽察

若恩ヲ蔑以シ山中ノ舞弄ニ善兵天分遺之畏兵
ヲ欺誘シ恣ニ佐之並ニ出張ニ終ニ正月廿六日十會
以テ

御屋形ヲ困ニ出入ヲ絶ス

若上ノ御膳米米洲強詞奪理
若上ニ逼リ奉リ候ニ至リ實ニ犯累み逆天地モ覆

亂賊アリヤ昔モ人臣在右ニ耳目アリテ日ノ形見開
スル者誰カ汝傲情滿其肉ヲ食ヒ其皮ニ寝スル

思ハサレヤ嗚呼
朝廷ノ德意何ヲ以テ微セシ藩内ノ政權何ヲ以テカ

若上ノ御膳米米洲強詞奪理
若上ニ逼リ奉リ候ニ至リ實ニ犯累み逆天地モ覆

亂賊アリヤ昔モ人臣在右ニ耳目アリテ日ノ形見開
スル者誰カ汝傲情滿其肉ヲ食ヒ其皮ニ寝スル

天

兵御征討
仰出候ハ必然不日之中看之候得ホモ片時モ難捨
置四藩ヲ首トシテ所忠憤義烈ノ士大義ニ精銳ヲ
盡シテ煩ヲ以テ逆ヲ誅衆ヲ以テ寡ヲ誅又必摧陷廓
清之功ヲ奏ス
若上ノ御膳米米洲強詞奪理
若上ニ逼リ奉リ候ニ至リ實ニ犯累み逆天地モ覆

ソノ力ヲ畏ル
トテ犯スル悪ヲ助ケス順逆ヲ辨シテ方ニ定メ唯國
家ノ急難
若シテ定意ニ注目シ不義ヲ賊シ若シテ取リテ
載ル毎ヲ貽ス事ナカレ故ニ撮文ヲ傳ヘ以テ聳音
耳目ヲ警カス者也

明治三年庚午二月

○夜兒島藩國中 醫者 戸諭生口書

夫醫術久命附ル所也 百般學術伎藝ヲアリト雖モ醫
ヨリ重キハ無ク故ニ此術ニ從事スル者ハ心術端正應心年懷善ヲ
見テ之ニ從ヒ過テ聞クハ遠シ之ヲ改メ柳毛固我ノ解意アリハ
カラス蓋醫術ハ派流區々ニシテ漢洋友々ノ別アリト雖モ要
不ニ生理ヲ明カシテ病ヲ治スル集ニ藥性ヲ詳ニ詮騐ニ徵ルハ
無ク近頃官ニ醫官校長病院ヲ興シテモ東京ニハ英吉利醫
延テ浪華ニハ荷蘭ノ醫者ヲ招キテ之ヲ師範ナシテ從學ヲ
許可シ施藥ヲ公行シテ是レ西洋今時ノ醫學至精至醇
遙漢土古來ノ醫術ニ卓絶スルトノ廟議明白ナ故ニテ亦
之ヲ近ヨリ詮騐ニ徵ルニ東北ノ殺軍士ノ創傷ヲ受ル者ニ病院ニ
入テ英醫ノ治メ受テ萬死ヲ免ラシ一生ヲ得將ニ括トテ死
肉ヲキテ蘇生セシ者其數ヲ知ラズ若シ兵馬騷擾ニ際シ病院

北創傷之治
此創傷之治
不之能治也
西洋法也
ナリカク

ノ設ケルノ無ク庸工ニ軍士治療ヲ至ラシメ徒有功ノ士寛
ヲ合シテ良醫ノ者多ク如荷ニ毎日拜スルヲ得ヤ
夫北軍ノ功ニ舊來西洋醫方ヲ謀リ試メテ粗暴ノ伎倆
ト思ヒ世俗大ニ迷夢ノ醒覺スベシ今吾黨ニタイテ英醫
ウ井リス氏ヲ招詩シテ醫學ヲ教メ大教頭トシ國中ノ醫員
ヲシテ其門ニ入傳習セシメ是即吾黨知軍ノ公深ク愛シ
聖旨日ニ体誌シ貴重ノ養生ヲ保全シ以テ
朝見ノ儀一テ朝ニ奏スルコト誠意ヨリ由ル所也自是
宜ク此意ニ則テ勤學ノ解ルル所也井ノ漢洋
醫術ノ優劣固ヨリ論辨ヲ存タズ中雖モ尚思ラ
ハ遠境僻邑ノ醫員生計艱難ノ見守株ノ習ヒ或ハ言ラ
者アラシ今日洋醫方ヲ行フ者ノ巧ナルハ漢方ヲ行フ者
ノ拙ナルハ其學ヲ精粗ニ因ルニ非ズ其入不交因

ノニ定ニ後方ノ士ヲシテ漢醫方ヲ精究セシメ以テ之ヲ醫
驗セシメ其功洋醫方下ラザル可ク又或ハ言フ者ラシ漢王
我邦ノ距テ三百里ニ過ギズ風土殆ト均ク人質相似シハ彼醫方
ノ假我カ患者去瘴氣ノ國ヨリ其宜キニ合フ西洋ノ書相距
ノ數千里人物殊俗同シカラ故其藥劑ノ用テ此方ノ病ハ
瘴氣ニ不釣當ナリト云フ言フ者ア我
皇國モホヨリ
神聖ノ醫方外國ノ醫術ハ此ノ足ラズ大凡此等ノ言皆
ノ知テニテ知ラザル偏頗ノ私論也是果ラカシトモ中以下ノ
入或ハ視聽ニ迷ハルヲ以テ一片ノ老幼安心更ニ言ヲ辨テ
黨生ニ意ヲ解カシ夫レ海外ノ國星散其布ノ多ク是日先
ノ照臨ルル所ナリシカ
天照大神ノ息澤ヲ蒙ラカレモノアラセサシバ人ニ貴賤アリ

適宜減祿
三年石以上一石方本
百石以下 從前之

三年石以上百石以下對給法以減之

從前下士以上六石無等級三丁士族上給之

是輕下初三年廢下給之

舊士、家來、從前上丁、格者、士族入其下、奉入

高百二十萬石

租稅米各金百丁

租米六十萬石斗

入民數 百七千人斗

士族五千人

知事家符

六年五千人

已兵士一年一石入

已兵士一年一石入

已兵士一年一石入

已兵士一年一石入

已兵士一年一石入

已兵士一年一石入

已兵士一年一石入

已兵士一年一石入

○己八月薩摩藩政 改革一系

一普 御筆之土壤 仰也

御筆之土壤 仰也

御筆之土壤 仰也

御筆之土壤 仰也

御筆之土壤 仰也

御筆之土壤 仰也

御筆之土壤 仰也

御筆之土壤 仰也

御筆之土壤 仰也

御筆之土壤 仰也

○年廿月

○何處... 大官... 酒... 清... 高...

○唐... 新... 官... 橋... 富...

○... 上行... 夜... 夜... 夜...

○... 右... 右... 右...

○... 其... 其... 其...

○... 其... 其... 其...

○... 書...

○天朝... 新... 國... 國... 國...

○... 大... 大... 大...

○... 一... 一... 一...

○... 一... 一... 一...

○... 一... 一... 一...

○... 一... 一... 一...

○... 一... 一... 一...

○... 一... 一... 一...

○... 一... 一... 一...

○... 一... 一... 一...

誠恐誠惶頓首白

五月廿五日

盛園主人

盛園主人

五月廿五日
誠恐誠惶頓首白
五月廿五日

東園主人
五月廿五日

五月廿五日

五月廿五日

五月廿五日
東園主人
五月廿五日

東園主人

五月廿五日

五月廿五日
東園主人

東園主人

五月廿五日

五月廿五日

東園主人

五月廿五日

○年五月七日 盛園海防
○本藩管轄内社祠検査之上古社三除本藩祠ヲ破毀之
小社各各併々城中一社城外四方一社一村一社
○年五月七日 盛園海防

○年五月七日 盛園海防
○本藩管轄内社祠検査之上古社三除本藩祠ヲ破毀之
小社各各併々城中一社城外四方一社一村一社
○年五月七日 盛園海防

○年五月七日 盛園海防
○本藩管轄内社祠検査之上古社三除本藩祠ヲ破毀之
小社各各併々城中一社城外四方一社一村一社
○年五月七日 盛園海防

○慶平御事九ノ被吉
火山涌出ノ事

○慶平御事九ノ被吉
火山涌出ノ事
○慶平御事九ノ被吉
火山涌出ノ事

○慶平御事九ノ被吉
火山涌出ノ事
○慶平御事九ノ被吉
火山涌出ノ事

○庚午五月廿六日傳字
府之微宣旨天格

府印

藤原 實名

任何府何宣

任何宣行何府知藤原朝臣實名宣
任何宣行何府大參事辭朝臣實名奉行

明治三年庚午何月何日

但知事大參事及字及公之二行長也書在左

何之何藤原宣何之

後任何藤原何之



